

## 深浦円覚寺古典籍保存調査プロジェクトに参加して

深浦町民代表 佐藤英子

円覚寺の暁観住職が深浦高等学校の古い校舎に勤めていた頃、私の職場で影絵のご指導を受けたことがありました。また、海浦由羽子責任役員が深浦町歴史民俗資料館にお勤めの頃は「古文書を読む会」でいろいろと学習をしました。

平成三十年二月、深浦町広報お知らせ版に「円覚寺古典籍調査への町民参加募集」の記事があり、前々から「何らかの形でお手伝いをしたい」と思っていた気持ちに火が着き、即座に応募を決めました。

古典籍の内容はほとんど理解できていませんが、一年目の最初は和本の縦と横の大きさとページ数の調査。後半に入って和本の各ページの写真撮影が主な作業になりました。この時、作業上では先輩である高校生とペアになり、孫ほどの年齢差のある私に礼儀正しく、さりげなくアドバイスをしてくれ、一緒に作業することがとても楽しかったです。

この年の七月、三十三年に一度の円覚寺ご本尊のご開帳が行われ、古典籍の作業が引き金でお手伝いを思いつき、観音講には属してはいないものの、私は一階の通り間で、夫は二階の寺宝館で、一週間ほどお手伝いできました。

平成三十一年三月、高校生は卒業し、写真撮影は夫とペアを組んでいます。この作業は簡単そうに見えましたが、本によってさまざまです。めくる紙質の良し悪し、厚薄、折れあつたり、くつついたり、それをいろいろな小道具を使って撮影します。中にはページに付箋付きのものもあり、同じページを三回、四回とシャッターを切らないといけないので、

なかなか集中力を必要とする手強い作業です。

今のところ、両手の指の腹の感覚と、遠近両用のメガネで見落とすこともなく、めくる作業ができています。一冊を終えるまでには、カメラの画面で見ると、位置がずれて来ることもあり、画面を見ながら注意深く、慎重に作業を進めています。

これまで、毎回の調査に参加をし、夫ともども「古典籍調査マイスター一級」を頂戴しました。これからも和本のページを見落とさず、丁寧に開くことに心がけ、古典籍調査のお手伝いをして参りたいと思っています。

